



MURAKAZA NEZA MU RWANDA

(Welcome to Rwanda)

Vol.2

JICA海外協力隊（2022年度1次隊）
ルワンダ共和国 シンゴマ郡 ムラマセクター配属
コミュニティ開発 水の防衛隊
五十嵐貴昭

目次



※通勤路

- 1
村会議に参加しました。
- 2
井戸修理が決定するまでの葛藤
- 3
井戸修理実施の選択は正しかったのか？
- 4
国際理解実践フォーラムに参加しました。
- 5
オンラインツアーのご案内

1. 村会議に参加しました。

井戸調査が終了したため、村人と共に井戸修理検討を目的としてカボザ村の村会議に参加しました。村会議は、村の意思決定や情報共有を目的に毎週火曜日、各村で開催されています。

村会議に参加する際は、基本的に現地語を使用する必要がありますので、自分が伝えたい内容の現地語をあらかじめ予習し、入念に準備をして出席しています。

(英語を話せる人が村会議に出席している場合は英語を使用します。)



※村会議にて住民の意見を聞いています。

「井戸修理の際には、部品代と技術費の料金が発生する。」

「修理後は井戸使用料を毎月支払う必要があるが、それでも修理を希望するか？」

(※井戸使用料は、井戸故障時に修理を迅速に行うための資金として徴収する必要があります。)

等の井戸修理によって発生する事柄を伝えます。最初は井戸修理希望派・否定派の両者がいましたが、最終的には村全体で「井戸を修理しよう！」という結論が出ました。文章だけではスムーズに物事が進んでいるように見えますが、このカボザ村での井戸修理の実施が決定するまでの期間は、多くの葛藤を感じる機会となりました。

2. 井戸修理が決定するまでの葛藤

①2人の井戸修理技術者どちらに修理を依頼すべき！？

井戸を修理する技術者がカボザ村に1名、カニーニャ村に1名、合計2名いました。カボザ村の村人は、当然ながら自分たちの地域の技術者と顔見知りであるため、カボザ村の技術者に修理を依頼することになりました。カボザ村の技術者から伝えられた修理費概算額は部品代を含め20,000RWF(約2,500円)。私がこの金額を聞いた際、平均的な修理料金と比べると高額ではないかと感じ、郡庁(県)職員に相談しました。郡庁職員がカニーニャ村の技術者に確認したところ、修理費は部品代を含め12,000RWF(約1,800円)。このことから、カボザ村の技術者の料金が高額であることが発覚します。

郡庁の職員は「カニーニャ村の技術者に依頼すべき。カボザ村の技術者は高額すぎる。」と主張していました。私個人の意見として、郡庁職員の意見も理解できると同時に、カボザ村の技術者に修理を依頼し、地域完結型の井戸修理体制を構築することで、カニーニャ村の技術者に依頼するよりも井戸修理実施の持続可能性が高いだろうという考えも持っていました。(カニーニャ村はカボザ村から自転車で約40分離れた遠方に位置しているため。)

○郡庁職員・住民を説得し、地域完結型体制を構築する方が有益なのか

○安価な修理費を提案し、修理実施への心理的ハードルを下げるのが適切なのか

より良い選択はどちらか？悩み続けるも答えは出ませんでした。私が村の方針を決定できる立場ではないこと、負担がかかるのは住民であることを考慮し、最終的な判断は住民に委ねました。結果は、料金が安いカニーニャ村の技術者に井戸修理を依頼することになります。

②井戸修理が決定されるまで

今回修理予定の井戸の特徴は以下の3つ。

1. 飲み水としては使用不可で、洗濯目的のみで使用となる可能性がある。
(水質が悪く、井戸故障前は洗濯目的のみ井戸を使用していた。)
2. 井戸が故障してからの4カ月間、井戸から徒歩5分の湧水のみで生活できている。
3. 井戸故障前は、井戸使用料を徴収していない。

井戸修理には部品代・技術費が必要です。さらに修理後は井戸使用料を毎月徴収する必要があります。料金が発生すること、上記の井戸状況を考慮すると

「低収入の世帯にとって井戸使用料が負担となり、自分の活動が悪影響を与えないか？」

「湧水が近く、4カ月間井戸無しで生活しているのなら、現状維持の方が良いのか？」

と感じていました。一方で、井戸修理を希望する村人の気持ちも痛いほどわかります。

2、3分の短い時間でも、毎日の水汲みの時間を減らせることで、生活は楽になります。

井戸修理の妥当性について長い時間悩みましたが、私はカボザ村で住民と同様の生活を送っていないので、正しい判断を下せる可能性は低いと感じていました。よって、井戸修理に対する有効性の判断材料として、洗濯用水の平均使用量を調査しました(飲料水として使用不可で洗濯に限り井戸が使用可の場合を想定し、洗濯時の水汲みの負担がどれだけ減るかを知るため)。結果は、「ジェリカン3個分」の水を洗濯で使用しているとのこと。すなわち、水汲み時は湧水を2往復する必要があります(1人で水汲みを行う場合)。よって、井戸修理が水汲みの負担軽減に繋がるので、実施のメリットは大きいだろうと判断できました。

住民には

「修理をしても、飲料水として使用不可の可能性あり」

「毎月の井戸使用料が発生」

「水委員会の設立の必要性」

等の、井戸修理後のリスクやデメリットを説明し、村人に意思決定を委ねました。村人同士で慎重に議論をしていただいた後に、最終的に「井戸修理を実施する」と村全体で決定しました。



※村会議での話し合い時の様子

3. 井戸修理実施の選択は正しかったのか？

話し合いを経て修理が決まった井戸。現状から一歩前進できたことはとても嬉しかったです。しかしそれと同時に、「カボザ村で井戸修理を実施することは正しいのか？」と感じる自分も存在しました。（カボザ村の水アクセス改善のために活動しているつもりでも、住民に対して総合的に悪影響を大きく与えないか？を懸念していました。）

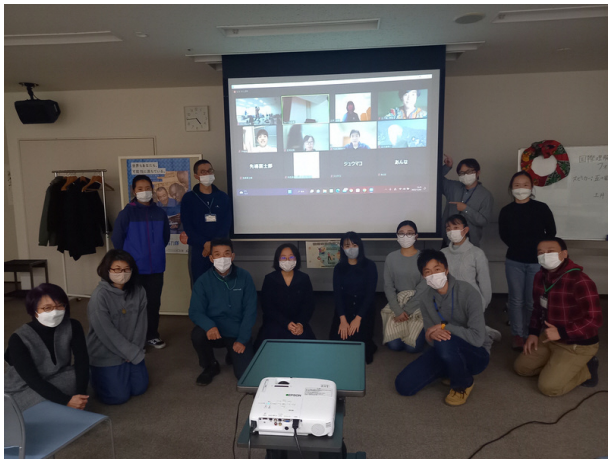
- ・「井戸を修理しても、毎月の井戸使用料が村人を苦しめてしまうのではないか？」
- ・「湧水が近いので[あえて直さない]ことで料金負担を発生させない方が良いのではないか？」
- ・「井戸を修理したいという意見は村人の願望であって、問題解決となるのか？」
- ・「そもそも井戸修理の提案をしたことが間違いだったのか？」
- ・「井戸修理を実施してみないと、正しい選択なのかはわからない」

等の、様々な考えを抱きつつ、井戸修理実施の妥当性に関して結局答えを見出せず、国際協力の難しさを肌で感じました。しかし、井戸修理の話を持ち出したのは私で、住民は井戸修理のデメリットを納得したうえで意思決定したので、私はその意思を尊重しなくてはいけないと思い、井戸修理を円滑かつ確実に実行できるよう支援すると決意し、活動を進めることにしました。

4. 国際理解実践フォーラムに参加しました。

2022年12月4日、国際協力への理解促進、学校における国際理解教育の推進、今後の国際理解活動の担い手の養成を目的とする国際理解実践フォーラムが、YOCA(山形県青年海外協力協会)の主催で開催されました。協力隊OVの方や現役高校生の方々に、私の活動内容を紹介させていただきました。

この機会を通して、次世代の学生のみなさんが国際協力やJICA海外協力隊に少しでも興味を持ってくださっていたら大変嬉しく思います。



※村会議にて話し合いの様子

5. オンラインツアーの案内

2023年1月29日（日）日本時間午後5時～6時に、出羽庄内国際村主催にて、「世界の今を見てみよう！旅する国際村オンラインツアー 第5回 ルワンダ共和国編」を開催することになりました！zoomを使用し、ルワンダの日常や風景を紹介させていただきます。[食材の買い出しの様子][教会近くで合唱、楽器演奏]等、他盛りだくさんの内容でオンラインツアーをさせていただきます！ご都合がつく方は、是非ともご参加ください。

世界の今を見てみよう！
旅する国際村
オンラインツアー
第5回
ルワンダ共和国編
1/29(日)
午後5時～6時頃
※現地時間同日午前10時～11時

Zoom(ズーム)機器を備ったオンラインツアーです。
全ヶ国域のある場所から、どこからでも参加できます。

【参加費】1アカウント 1,000円 家族や友人との参加も可
【参加するには...】Zoomアプリをダウンロードしたパソコン、タブレット、スマートフォンなどで参加ください。
【講師】村長の、電話、メールなどで事前にお申込みください。

【お申込み・お問い合わせ】
(公財)出羽庄内国際交流財団 鶴岡市伊勢原町8-32
TEL: 0235-25-3600 URL: https://dewakoku.or.jp

<お申込み・お問い合わせは以下まで>

- ・TEL/0235-25-3600
- ・Email/info@dewakoku.or.jp
- ・URL/https://dewakoku.or.jp